

市の動き

マタマタ・ピアコ市(ニュージールランド)と チャレンジデー参加同意書に署名

市はマタマタ・ピアコ市(ニュージールランド)の要請を受け、5月に行われるチャレンジデーの協議、参加同意書名式のため同市を公式訪問しました。高橋敏彦市長らが5日〜8日に同市を訪問。現地では、国会議員や地区議会議員、地域住民らに歓迎され、6日のワイタング条約記念日式典に出席したほか、マタマタ・ピアコ市の視察や今後の交流についての協議などを行いました。



署名後握手を交わす高橋市長(左)とバーンズ市長

7日にはマタマタ・ピアコ市のジャン・バーンズ市長とチャレンジデーの参加同意署名式に出席し同意書に署名。5月30日に開催されるチャレンジデーでマタマタ・ピア

地域経済分析システム(RESSAS)を 活用した政策立案ワークショップを実施

コ市との対戦が決定しました。市とマタマタ・ピアコ市との関わりは昨年、市がラグビーワールドカップを盛り上げるため、チャレンジデーで同国のラグビーの盛んな都市と対戦できないかとニュージールランド大使館に相談したことがきっかけ。同市を紹介され、昨年のチャレンジデーでは同市よりタツパーさん一家が北上市を訪れました。チャレンジデーの視察を行ったことでこの度の参加同意に至りました。

※ワイタング条約：英国の君主と先住民マオリとの間で1840年に締結された条約。条約締結を機に、ニュージールランドは英国領となりましたが、マオリが有する土地や文化の継承を約束されました。ニュージールランド最初の条約と考えられています。マタマタ・ピアコ市：人口約3万4千人。ニュージールランド北島北部に位置し、酪農やサラブレッドの飼育が盛ん。映画「ロード・オブ・ザ・リング」のロケ地として有名。



松原教授による分析発表に聞き入る参加者

地域経済分析システム(RESSAS)を活用した政策立案ワークショップは1月26日、生涯学習センターで開催されました。東京大学大学院総合文化研究科の松原宏教授、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、経済産業省、地元企業・金融機関、市の関連部署の職員ら約20人が参加。市政企画課が同システムを利用した地域産業の分析を発表しました。その後、松原教授による分析発表が行われ、最後に全体での政策ディスカッションを行いました。市の分析では市の産業の特徴は2次産業が地域をけん引。製造業の付加価値額、従

業員数が全国・県の平均を上まわっており、主力産業となつていくことがわかりました。一方、主要産業の製造品出荷額、事業所数が減少。労働生産性が全国平均を下回っている点を課題と捉えていると発表。政策ディスカッションでは、課題解決に向けた意見交換を実施。地域企業の設備投資への支援や企業間ネットワークの強化の必要性などについて、議論を重ねました。

地域経済分析システム(RESSAS)：産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム。地方創生のさまざまな取り組みを情報面から支援するため、経済産業省と内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)が自治体に提供しているもの。効果的な施策の立案・実行・検証のためなどに広く活用されています。

きたかみ景観資産 新たに1件認定

29年度第2回北上市景観審議会は1月30日、本庁舎で行われ、新たに1件の景観資産を認定しました。今回の認定により、きたかみ景観資産は112件となりました。

■新たに認定した景観資産

◇No.112 開拓魂の歴史を刻む、後藤野墓地公園
(所在地)和賀町後藤1地割内
(団体名)後藤野自治会



景観資産に認定された後藤野墓地公園

消防団協力事業所表示証を新たに交付

市は、複数の従業員が消防団員として入団している事業所や、災害時などに消防団に資機材を提供している事業所などに対し、北上市消防団協力事業所表示証を交付しています。このたび、次の事業所に同表示証を交付しました。

○北上商工会議所

(青柳町・12月8日付け交付)



○有限会社川村組

(藤沢・12月22日付け交付)

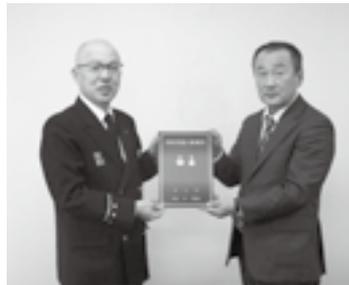
○丸片機水工業株式会社

(常盤台・1月16日付け交付)

これまでに交付を受けた協力事業所は28社となりました。



北上商工会議所の八重樫民徳専務理事(右)



丸片機水工業株式会社の片方直哉代表取締役(右)

認定の有効期間は、認定の日から2年。同表示証は事業所などに掲示されています。
▼申し込み・問い合わせ：消防防災課 ☎72-18305

消防ポンプ自動車を配備

消防ポンプ自動車引き渡し式は5日、北上市防災備蓄倉庫で行われました。同車両は市消防団第12分団第3部(堅川目区)の車両の老朽化に伴い更新されたものです。

式では消防防災部長から消防団長へ鍵などが引き渡され、その後、消防団長から第12分

団の伊藤健分団長へ渡されました。

引き渡し式の後、団員は車両の機能の確認や放水テストなどを行い新車両の取り扱い方法を確認しました。

伊藤分団長は「速やかに操作に慣れ、大切に使用したい」と話していました。



引き渡し式の後、新車両の説明を受ける消防団の皆さん

マタマタ・ピアコ市



ご一家が当市のチャレンジデーの取り組みを視察し、市長に伝えられたものである。今般、マタマタ・ピアコの地区議会が当市との対戦を正式に決め、この度の訪問要請となったものである。

2月初旬、ニュージーランド北部にあるマタマタ・ピアコ市を訪問した。この市とは今年のワールドチャレンジデーで対戦する予定であり、人口が3万4千人、面積は当市の約二倍、周辺を美しい牧場や自然に囲まれ、テ・アロハという神聖な山や温泉などもあり、どこか北上市にも似た美しい「まち」である。映画「ロード・オブ・ザ・リング」のロケ地としても知られている。

実は昨年、チャレンジデーの対戦相手を検討した際、ワールドカップラグビーを盛り上げようとニュージーランド大使館に問い合わせ、このまちを紹介していただいた。昨年、ジャン・バーンズ市長のご友人であるタッパーさん

2月6日はニュージーランド建国の歴史上重要な、ワイタンギ条約締結(原住民マオリ族とイギリスとが締結記念日であり、我々も式典に招かれた。互いに鼻と鼻を合わせるマオリ式のあいさつとフレンドリーな雰囲気で大に歓迎していただいた。

チャレンジデーの署名式は地区スポーツセンターのレセプションホールで国会議員や地区議会議員も同席し、行われた。その後のランチミーティングでは、イベントの運営や盛り上げ方、交流の方法などについて、1時間以上にわたって有意義な話し合いをすることができた。

マタマタ・ピアコ市は、教育や文化、アウトドアスポーツなどにも力を入れており、今回のチャレンジデーが子供たちを始め市民同士の交流のきっかけになることを大いに期待している。